

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900575		
法人名	社会福祉法人 廣山会		
事業所名	プルミエールひたち野2号館		
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市稲吉2丁目21番7号 (電話)029-833-3300		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(平成19年5月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 19 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 10人, 非常勤 11人, 常勤換算 16.7 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階 建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	15,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	8 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 69 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 ・ 高野歯科院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地に鉄筋コンクリート2階建てであり、建築物の2階に3ユニットのグループホームが設置され、日当たりや風通しも良く明るい雰囲気である。ホームの居室や共有空間は広々としており、和室、洋室の設定があり利用者の意向によりその人らしい生活空間が提供されている。1階にはデイサービスが併設され、デイサービス利用者との交流も可能になっている。またこの施設には地域交流センターという広々とした多目的室があり、地域の住民やボランティア各種イベントに無料で提供するなど、地域に根ざす試みがあり、利用者との交流や季節のイベントなど利用者に対しての様々な活動要素がハード面から作られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しや、日常の記録に対する改善を行った。職員間で話し合いを持ち利用者個別性を持った介護計画の作成に取り組んでいる。介護計画は、身体状況や日常生活動作を踏まえ状況に合わせて見直しや変更が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に外部評価の意義を深く理解し職場全体で自己評価に対して取り組まれている。調査後は会議を開き今後のケアの質の向上を念頭に積極的に取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在行政や地域の住民及び利用者家族の協力の下、7月を目標に運営推進会議の開催を予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情は、面会や随時連絡の場をもって直接職員が家族からの意見を聞き入れるようにしている。家族からの苦情はほとんど無いが、苦情や意見を受け入れ会議などを開催しその都度職員全体で改善に向け検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域交流センターを施設内に設置し地域の住民や、ボランティア各種イベントなど無料で貸し出し地域との交流を密にする工夫がある。また自治会や町内会にも参加し地域の清掃活動への参加など積極的な地域への取り組みがある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を掲げ、理念と方針の下に利用者へのケアが提供できるよう心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員間に定着するよう毎朝の朝礼で復唱したり月1回の全体会議のなかで管理者から説明を受けるなど理念の啓発に積極的に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設内に地域交流センターを設置し地域の住民やボランティアなど多くの利用者に無料で提供するなどし、地域に密着するための工夫があり実施されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも外部評価の意義を十分に理解し、ケアの向上に向け全員で取り組まれている。自己評価項目にも職員が直接携わりその内容から職員間での気づきを経てケアの質を向上させようと努力されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現段階での運営推進会議は行われていないが、行政、家族、地域の住民などに働きかけ7月に初回の会議を開催する計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携は主に管理者が行っている。また行政からの来訪などもあり、必要に応じて連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には、月に1回は必ず面会に来てもらうことを前提に、入居してもらっている。面会時には利用者の状況など説明し、毎月文章や写真などを利用し報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはアンケート等を利用し家族の意見を聞き入れられるようにしている。また入居時にも直接意見を聞き改善やその人らしいケアの提供に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の面接を定期的に行い、職員の状況を把握するように取り組んでいる。また結婚退職などの時は、利用者を含め送別会などを開催し、職員が復職しやすい環境を設定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育を徹底され、内外研修は全て施設の負担で職員の研修を行っている。年間計画も立てられ報告も随時行われている。職員教育に対し熱意を感じた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークがあり勉強会などへの参加も行われている。また同業者間での、職員及び管理者間との交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居依頼のあった場合は、必ず見学や昼食を利用者と共にするなど入居までのプロセスを大切に、利用者が馴染みながら入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を念頭に利用者の意向を聞き入れ、利用者の行える範囲で作業を行ってもらっている。職員は利用者が気持ちよく手伝えるよう、利用者に頼っている姿勢で、また感謝の気持ちを持ち接するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアのなかで利用者の意向を重視し、言動などにも細かく配慮し、利用者の希望に対応できるよう家族などにも参加して頂きケアを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況を把握し職員全体で介護計画の作成が行われている	○	改善点として見直され介護計画の作成が十分に行われるようになっている。今後は利用者のその人らしさを十分に活かせるようアセスメントシートなどをさらに活用され介護計画の充実化に取り組んで頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に担当者をあて責任を持って介護計画の作成に取り組まれている。計画の見直しなど家族の意見なども十分に反映させ最新の介護計画でケアが提供できるよう工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の設置や地域交流センターなどを活用され施設の多機能性を活かした柔軟な支援が提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり夜間など急変時の対応に適切に対応が出来るようになっている。夜間職員も相談でき夜間職員の不安も少ない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化や看取りについては、施設内での受け入れは無いが、重度化や終末期に移行した利用者に対しては特養などに入れる様に配慮され、家族の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護、尊厳については、職員に研修などに参加させ教育の徹底を図っている。記録物などについても保管場所を決め漏洩の防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活時間に合わせた支援を常に念頭に置き支援するようにし、希望に添えるよう職員間での話し合いなどを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中央配膳になっているが、利用者が少しでも食事へ参加できるよう、みそ汁を作るなどの場面の設定が施されている。職員と利用者が一緒に食べられるように設定され、食を楽しむ配慮がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に合わせて時間の設定などを行っていない。また入浴拒否の強い利用者に対しては、デイサービスの大浴場などを利用し入浴を楽しめるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の利用者が多く、洗濯、食事などの役割を持ってもらっている。	○	利用者の日常生活自立度など配慮に入れ、その人の生活史など十分に考慮し、個人に合わせた役割の提供への配慮に今後取り組んで頂きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出の支援が行われている。また利用者の希望により電車での外出なども提供されている。外食や買い物なども定期的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの提供に取り組まれている。	○	ホーム中央の出入り口は、自動ドアになっており施錠はされていない。しかし利用者が完全に自由に出入りする環境ではなくハード面での改良も必要と思われる。そのため施設の多機能性を活かし、今後の取り組みが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設の配置が地上2階部分になっており、災害への対策は必要に高い。そのため施設では年に2回の消防署を交えた訓練の他に、施設独自ではほぼ毎月防災訓練を職員間で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の水分出納や排泄、食事の摂取量は記録されており状況変化に素早く対応出来るよう工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングには、利用者が落ち付けるようなこじんまりとした共有空間が設定されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や馴染みの物品については、持ち込みが自由になっている。利用者のなかには、一人暮らしの時に飼っていたペットや植木などを持ち込まれている方もいる。		